

平成31年度 4月就任記者会見 会見録

日時 平成31年4月22日（月）午後2時00分～2時30分

場所 市役所2階第1特別会議室

（市長）

本日、初登庁させていただきます。今日から4年間の任期をお預かりいたしました、相模原市長の本村賢太郎でございます。マスコミ各社の皆さんにおかれましては、これから皆さんとの対話も深めて、よりよい相模原市をつくっていきたいと思っております。この選挙戦を通じましても、顔の見える相模原市長として対話を重視しながら、さらにチャレンジする相模原をつくっていきたいという話をしてまいりました。72万市民の一人一人が、かけがえのないポテンシャルを持っていらっしゃいますので、その可能性を生かしながら、各区の特色を生かした、さらには都市内分権を進め、地域で決めていただけるような話は、私はいろんな権限や財源を移譲していきたいという風に思っております。その中で、私たちの相模原市は、都市部と自然のベストミックスのまちづくりが可能だという風に思っております。SDGsに関する取り組みにつきまして、これは加山市長もお話されておりましたが、日本経済新聞社の調査で全国6位という評価をいただいたようでございますが、これから持続可能な相模原市をつくっていくためにも、皆さんのお声をお聞きし、英知を結集して、よりよい相模原を皆さんと一緒に築いていきたいと思っております。

私は、これまでサラリーマンやそして国会議員の秘書、さらには、神奈川県会議員、衆議院議員を経験してまいりましたが、行政のお仕事をさせていただくのは、今回が初めてとなります。市の職員はポテンシャルも十分あり、素晴らしい方が多いと思っておりますので、職員の皆さんを信頼し、信用しながら、よりよい相模原をつくっていくためにも、職員の皆さんに力を借りながら、72万市民の皆さんの安全安心をしっかりとつuckingていきたいと思っております。

また、議会との関係におきましても、議長、副議長や各会派の皆さんとも話をしてまいりましたが、議会と行政とは対等の立場で、二元代表制の意義をしっかりと、私たち行政サイドも認識した中で、議会に対しても、しっかりと物が言えるような行政体制をつくっていきたいと思っております。私はかつて松沢県政の時代に、県会議員でした。その時に、県議会と県行政の関係性が厳しい場面

も経験してきました。あの時は議会側の立場でありましたが、今回行政サイドの立場であります。そういった中で、これから会派構成も市会議員の皆さんがどうなるかわかりませんが、市会議員は46人いらっしゃいますので、議員の皆さんとの対話も重視し、各会派とも連携をしながら、政策論争は大いにやっていきたいと思っております。その点においては、現在でも補給廠の跡地利用に関する発案などもいただいております。どんどん皆さんから意見を発していただき、これから10年20年かけて、皆で良い相模原をつくっていききたいという思いがあります。例えば、リニア中央新幹線新駅も駅ができて完成ではなく、駅をつくるというきっかけをチャンスにして、多くの市民の皆さんが誇りを持ち、さらには市外から多くの皆さんが、お越しいただけるような、おもてなしができる相模原市をつくっていききたいと思っております。新横浜駅も駅が完成して、今の形になるまでには20年30年という年月がかかっています。そういった意味では、橋本においても、補給廠においても、私自身が方向性をしっかり示しながら、職員の皆さん、市民の皆さん、マスコミの皆さん、国や県の皆さん、いろんな方々の英知を結集して、方向づけをしていききたいと思っております。さらには南区では、伊勢丹の撤退問題や麻溝台・新磯野地区の土地区画整理の課題など、既にある程度お話を内々で伺っているものもありますので、そういった問題にも果敢にチャレンジできるような、体制をつくっていききたいと思っております。

今日から市長室も扉をすべて開放しています。ロビーと秘書課の間の扉も開放してあり、市長室の扉も2つありますが開けてあります。これまで市長室の扉を取り払うという話もしてまいりましたが、セキュリティ上の問題もございますので、しっかりと秘書課や財政担当の皆さんとも議論を重ねながら、まず出来る改革の第一歩がここではないかと思っておりますので、そういった意味で、開かれた市政の第1歩は、扉を開放しながら、市民の皆さんと対話ができる、そういう形をつくっていききたいと思っております。また、明日から各区、部局とのヒアリングが始まりますが、市長室に皆で入っていただき行きたいと思っております。これまで職員が市長室に入ることがあまり無かったという話を伺っており、より多くの職員の皆さんにも市長室に出入りをしていただき、市長室で皆さんと対話をして、顔の見える相模原市長として、職員の皆さんとのスキンシップも大事にしていきたいと思っております。また、若手の職員から、なかなか市長の顔を見たことが無いとか、どんな人が市長になったんだろうかという話も聞いております。さきほど、昼食を食べた定食屋さんに、職

員の方がいて、この人が市長なんだという話もありました。ぜひ、若手の皆さんとの交流も深めて、いろんな知恵を若い人たちから、自分がもし相模原市長だったらこんなまちにしていきたいとか、自分が市会議員だったらこんな形で議会改革を進めていきたいとか、行政の形をつくっていききたいとか、それぞれの考えを聞きながら、私はとにかくいろんな人と対話をしていきたいと思っております。何よりも7,600人を超える市の職員がおりますので、市長部局だけでなく、教職員をはじめ多くの職員がいらっしゃいますので、教職員の皆さんとも議論を重ねていきたいと思っております。全国学力テストの結果を踏まえて、どのようにしたら子供たちの基礎学力が上がっていくのか、川崎市に倣った話ではありますが、私は習熟度別の授業の導入についても政策で挙げておりました。昨日も、先生が先生を教えるということも大事じゃないんですかというお話もいただきました。いろんな立場で、野村教育長とも連携をして、果敢にチャレンジできる制度をつくっていききたいと思っております。

ざっといろいろなお話をしてまいりましたが、これから1日1日勉強しながら、皆さんと一緒に、私がこれまで経験してきた政治家としての経験とサラリーマンとしての経験を活かしながら、行政は初めてであります1年生として、まだ新米市長かもしれませんが、これから一步一步、まずは任期4年間でしっかり完結できるように前に進めていきたいと思っております。以上で冒頭のご挨拶に代えさせていただきます。

(記者)

就任式も拝見させていただき、職員に向けて、「一緒に」とか「提案をしてくれ」という発言がありました。その発言に込められた思いや、そういった言葉を発した理由をお聞かせいただけますか。

(市長)

現在、相模原市の平均年齢はおおよそ46歳であり、私も同世代の49歳です。若い人たちが、いい発想を持っているんだけど、政策として形になっていないという話を、若い人たちからも聞いたことがありますので、ぜひ遠慮なく市長室に来ていただいて、同じ人間として対等に意見を交わして、お互いに72万市民皆さんの幸せ、安全安心をつくっていくためには、年齢は関係ないと

思っております。確かに、年数を経験しないとわからない、経験談も先輩方にはあると思いますけれども、逆に言うと、何もわからないからこそ、いろんな新しい発想が生まれてくるかもしれません。私は、サラリーマン時代に、当時建設会社の本社の総務にいたのですが、20年ぶりに新人として入りました。その時の上司から、もし、本村賢太郎がその会社の社長だったら、自分はこうしたいということをはっきり言えるような、新入社員であってほしいと言われ、私もそれ以来、いろいろな人の意見を聞くことは非常に大事なことだと思っており、既にマスコミの皆さんからもご提案やご指摘もいただいておりますので、多くの方と意見交換して、前に進んでいきたいと思っております。

(記者)

明日から行う各区、部局とのヒアリングを市長室で行うということで、本村カラーの第一歩が早速見えてきたなという印象もありますが、そこには顔が見える市長、対等というような思いが強くあるのでしょうか。

(市長)

意外にも職員が市長室に入ったことがないということを知り、若い職員から聞いたんです。私が市長になったら、市長室の扉を開放して、職員の皆さんにも入っていただき、いろいろなレクチャーを受けたり、ヒアリングを行ったりしながら、一緒に相模原を考えていこうという話を選挙前からしていましたので、まず、第一歩として実現していきたいと思っていました。また、市長室で話をすることで緊張感も出るとは思いますし、若い人たちもここが市長室か、自分も将来市長になってみたいと思う職員もいるかもしれません。いろんなポテンシャルを職員にも持ってもらうなければなりませんから、大事なことは市長を向いた職員ではなくて、相模原市民を向いた職員であり、市行政でなければいけないと思っております。公僕として、サービスを提供する側として、市民本位の形をつくっていくためにも、市長室で皆さんとランチをしたり、会話をしたりしていきたいと思っております。

(記者)

今日、早速市民の方が市長室近くにもいらっしゃったようですが、市長室でお話はされましたか。

(市長)

今日は、私の長年の秘書時代からの同級生であり、先輩でもあった、長友克洋県会議員といろんなお話をさせていただきました。

(記者)

先ほど市の抱える課題について触れられましたが、どこに一番力を入れて取り組んでいきたいのか、教えていただけますか。

(市長)

私は、市民が誇りを持てるまちにしていきたいと思っております。選挙戦で訴えてまいりましたが、民間の調査会社による住民のまちへの意識を測る調査「シビックプライド」において、相模原市は151市中149番であり、調査対象となっている政令市の中でも最下位でした。相模原市を、新しい移住者を含め、住んで良かった市にしていくためにも、まずは相模原市の魅力をどんどん知ってもらいたいと思います。私も選挙期間中、市営のやまなみ温泉に初めて行きましたが、藤野にはこんないい温泉があったんだなということを知りました。南区に住んでいる私は、緑区のことはまだまだ十分知りませんし、先週は藤野や相模湖に行って、現地視察もしてきましたが、自分たちのまちには、こんなに良いところがあるんだということ、どんどんトップセールスしていき、まずは相模原市の隠れた誇りをどんどん出して行って、市民に知ってもらいたいと思います。また、聞くところによると、伊勢丹相模原店の跡地の活用に関する問題や麻溝台・新磯野地区の土地区画整理事業に関する問題についても、非常に多くの心配の声をいただいておりますので、これらを見直すのか、それとも新しい形に変えていくのかも考えていかななくてはなりません。ほかにも、相模総合補給廠の跡地の活用や小田急多摩線の延伸についても、かなりハードルが高いものと思っております。町田市との連携も必要になってくると考えています。リニア中央新幹線の新駅についても、駅ができて完成ではなくて、駅ができて10年20年30年かけて、まちづくりを進めて、おもてなしができる橋本地区にしていかなければなりません。緑区には自然があり、大変高いポテンシャル

を有しており、リニア車両基地ができることから回送線を活用したいという話も出ておりますが、太田前国土交通大臣も私の委員会質問の中で、回送線の活用は一考に値しますが、相模原市からは残念ながらJR東海に話が上がっていませんという話も聞いておりますので、いろいろとやらなければならないことがあるという思いであります。

私は市民の皆さんとまず、市内のイベントなどで、対話をしながら、顔の見える市長をしっかりと目指していきたいと思っております。

(記者) 明後日、九都県市首脳会議があり、市長にとっては外交デビューといえますか、市長としての最初の大きな仕事になると思います。相模原市をトップセールスする第一歩とも思われますが、どのように臨まれるか、意気込みがあれば教えてください。

(市長)

政令市の市長にも友だちや先輩もいますから、その方々に指導もいただきながら、政令市のいいところ、例えば浜松市は野党系の方が市長なられたわけですが、皆さん無所属ですから、与党も野党もないのでしょうか。私はかつて野党系の議員でしたので、国や県の予算が切られるのではないかという話も選挙戦では心配されました。しかし、実際に政令市の市長の中にも野党系出身で、現在、無所属の先輩がいっぱいおり、そういった方からは予算が切られているという話も聞かないです。浜松市は住みたいまちのランキングでずいぶん上位にあり、人口もほぼ相模原市と同じであります。雇用という面でしっかり働く場所があり、浜松市で生まれたお子さんたちが、学んでそして働きに出るときも市内で完結できるような立地条件もあります。いいまちのつくりはしっかり見つめていきたいと思っております。川崎の福田市長は私の親友ですが、選挙戦もずいぶん応援に来てくれましたし、いろんな議論もしていく中で、福田市長には、やっぱり川崎に負けない相模原をつくっていくからねということ発信しております。川崎で子育てしたいという若い人たちの声をよく聴くのですが、今度は相模原市で子育てしたいと思っていただけるようにしていきたいと思っております。他の政令市の市長ともいろんな会話を重ねて、各市でやっているよい事例は、参考にし、相模原市でも取り組んでいきたいと思っております。

(記者)

産業振興に関しては、どのようにお考えでしょうか。

(市長)

平成27年の国勢調査の結果に基づく数字ですが、相模原市の昼間人口は夜間に比べ88%くらいに減ります。やはり相模原市で雇用をつくっていかなくちゃいけないという思いがあります。若い人たちには隣の町田市と比較をされることがあり、東京というブランドや、子育て政策や雇用という面で町田市の方が手厚いものがあり、町田市を選ばれる方をよく聞きます。私は子育て世代の人たち、これから税を収めていただくような若い世代の皆さんに、相模原市を選んでもらうためにも、大手企業に特化せず、中小企業にも頑張ってもらいたいと思っております。中小企業の皆さんが進出しやすい環境をつくっていきたくて思っており、税制優遇などを含めて、中小企業の皆さんが相模原市で起業してチャレンジしていきたくて思える環境を整え、若い人たちの雇用がつかれるような体制を整えていきたくて思います。私もサラリーマン時代や県会議員時代、国会議員時代には電車に乗って相模原から横浜や都内へ通っていましたが、なかなか大変でした。テレワークという新しい働き方の導入の検討も進め、子育て世代のお母さんが、往復2時間を通勤時間に使うのではなく、例えば町田市と連携して町田に働き場所をつくることによって、町田で仕事が完結して、子育ての時間や趣味の時間、家族の時間が取っていただくことも可能になります。これから私自身もいろいろな企業に、特にJAXA相模原キャンパスがありますから、宇宙産業にも特化した体制がつかれるんじゃないかなと考えています。そういった中で、私自身も皆さんのご縁を通じながら、各企業にもトップセールスして相模原市に本社をもってきてくれないかと、相模原市で一緒にこれからをつくっていきませんかということを訴えていきたくて思っています。

(記者)

副市長の人事についてのお考えを聞かせてください。

(市長)

副市長の人事については、あちらこちらで聞かれますが、私にとっても片腕となる大切な人事であります。現在いらっしゃる、三人の副市長は皆さん加山市政を支えてこられたご経験がございま

すので、敬意を表してまいりたいと思っており、副市長人事に関しましては、もう少し考えて方向性を示していきたいと思っています。

(記者)

進退伺いみたいなものは出ているのでしょうか。

(市長)

進退伺いというものは、口頭ではいただいております。

(記者)

三人ともですか。

(市長)

人数については控えさせていただきます。

(記者)

いつごろまでに結論を出されるお考えですか。

(市長)

そこも含めて、考えております。

(記者)

5月17日には臨時議会がありますが、そのあたりでしょうか。

(市長)

そうですね、そう遠くならないところで考えていきたいと思っています。

(記者)

議会までに考えをまとめたいとは、まだ言えないですか。

(市長)

そうですね。

(記者)

相模原市の財政について、加山前市長は健全であるという見解を示していましたが、事実はいかがでしょうか。また、財政が苦しい状況にある場合、どのように財源を確保していくのでしょうか。

(市長)

この話はある意味、肝になってくるところでありまして、税金がなければ新しい施策もできないということになります。現状では相模原市は政令市の中でも比較的、財政運営は健全だというお話も聞いておりますが、これからしっかり実情を精査していかなければいけないと思っています。そうした中でどうやって税金を確保していくか、例えば補給廠の跡地利用をどのようにすれば固定資産税を得られるか、どんなまちにすれば税金が上がるのかということも考えなければなりません。若い方々や、子育てするご夫婦が、相模原市を選んでいただけるような形をつくることも、税金アップにつながりますし、雇用、企業の誘致もそうですよね。ですからいろんな形で、これから相模原市の税金の方向性というのは、これから私ももう少し勉強しながら、方向を決めていきたいと思っております。ただ、現時点では市民によく話を聞くことが重要です。お金がないから施策が出来ないという話を皆さんからよく聞きますが、お金がないから出来ないじゃなくて、そのお金をどうやってつくりたいかという発想も市民との対話や行政幹部との対話もしっかりとして方向を決めていきたいと思っています。

(記者)

今回の選挙では、ヘイトスピーチを行う団体から立候補者を出し、現場でも聞くに堪えないような言動があるなど、トラブルが起きました。本陣も少し巻き込まれたような部分もあったと思いますが、ヘイトスピーチに関して、相模原市として何らかの対策や条例制定に向けた動きなどは考えていらっしゃるのでしょうか。

(市長)

国会議員を務めてきた中でも、ヘイトスピーチということはあってはならないことだと思っておりました。これから、条例制定も含め、前向きに検討していきたいと思っています。

(記者)

具体的にどのような内容なのか、また、スケジュールなど、今の段階で目途があれば教えてください。

(市長)

今の段階では、そこまでまとまってないですね。

(記者)

前向きにというのは、どのような意味合いでしょうか。

(市長)

聞くに堪えない発言が多くあり、生まれた環境や人種で差別をするということはあってはなりません。記者から質問がありました、前向きな取り組みというのは、条例制定も含めて検討をしっかりとしていかなければならないということです。

(記者)

今回の市長選で、政策集の中で、日本一のSDGs、相模原ということを第一に掲げており、その中で103の政策インデックスということを掲げていました。今後、これを実現していくのかどうかは問われてくると思いますが、具体的にどのように達成していくのか、また、達成の目標なりそれに向けたスケジュールなりがあれば教えてください。

(市長)

現在、市では次期の総合計画を策定中です。このことについては、迅速に策定を進めていかなければならないと思っております。明日から各部局とのヒアリングが始まりますから、103の政策に関して、総合計画に盛り込んでいただくような形になるよう、しっかり進めていきたいと思っております。また、任期の4年間でどの程度のことが出来るのか、これも各部局と相談し、方向性決めていきたいと思っております。

以 上